

国内の畜産物の需給動向

牛 肉

7 年 8 月の牛肉生産量、前年同月比3.8%減

生産量

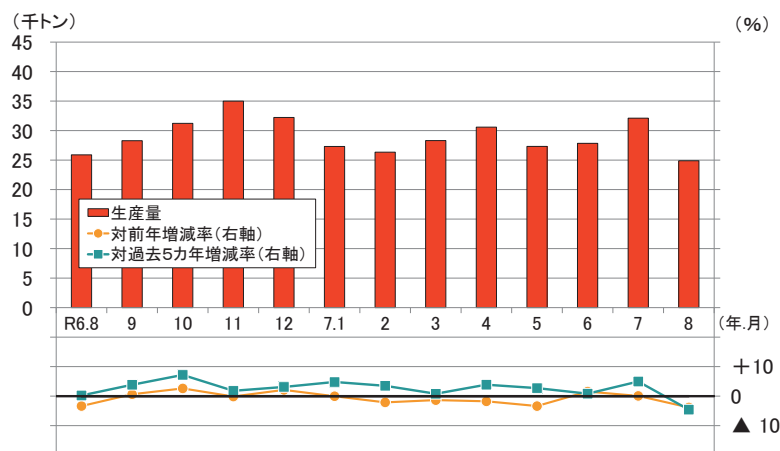
令和7年8月の牛肉生産量^(注1)は、2万4893トン（前年同月比3.8%減）と前年同月をやや下回った（図1）。品種別では、和牛は1万2610トン（同0.0%減）と前年同月並み、交雑種は6917トン（同0.7%減）

とわずかに、乳用種は5331トン（同14.2%減）とかなり大きく、いずれも前年同月を下回った。

なお、過去5カ年の8月の平均生産量との比較では、4.6%減とやや下回る結果となった。

（注1）生産量の合計は、その他の牛、子牛を含む。

図1 牛肉生産量の推移



資料：農林水産省「食肉流通統計」

注：部分肉ベース。

輸入量

8月の輸入量について、冷蔵品は、国内需要が低調な中、現地価格の高止まりの影響などにより、主要輸入先のうち米国産の減少が見込まれることなどから、1万4950トン（前年同月比6.4%減）と前年同月をかなりの程度下回った（図2）。冷凍品では、米国産ショートプレート（バラ）は現地価格の軟化から

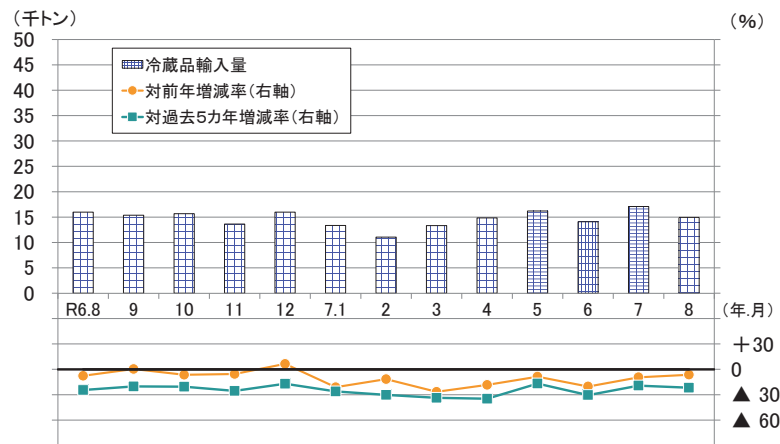
輸入量が増加したものの、総じて現地価格は上昇しており、ほとんどの輸入先からの輸入量が減少したことなどから、2万8241トン（同14.1%減）と前年同月をかなり大きく下回った（図3）。この結果、輸入量の合計^(注2)でも、4万3219トン（同11.6%減）と前年同月をかなり大きく下回った。

なお、過去5カ年の8月の平均輸入量との比較でも、冷蔵品は21.7%減と大幅に、

冷凍品は7.9%減とかなりの程度、いずれも
下回る結果となった。

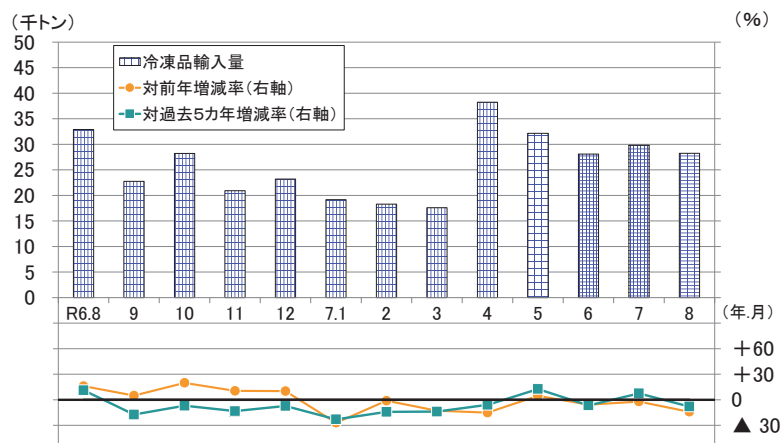
(注2) 輸入量の合計は、煮沸肉、ほほ肉、頭肉を含む。

図2 冷蔵牛肉輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：部分肉ベース。

図3 冷凍牛肉輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：部分肉ベース。

家計消費量等

8月の牛肉の家計消費量（全国1人当たり）^(注3)は172グラム（前年同月比2.4%増）と前年同月をわずかに上回った（総務省「家計調査」）。

なお、過去5カ年の8月の平均消費量との比較では、7.9%減とかなりの程度下回る結果となった。

8月の外食産業全体の売上高は、前年と

比較して土日が多い曜日周りで、台風の影響も少なく猛暑が続き、冷たいメニューやビール類などの売上増に加えてお盆の帰省需要も好調だったことから、前年同月比8.4%増と前年同月をかなりの程度上回った（一般社団法人日本フードサービス協会「外食産業市場動向調査」）。

このうち、食肉の取り扱いが多いとされる業態として、ハンバーガー店を含むファストフードの洋風は、夏限定の新商品や定番の

季節メニューが好調で、同7.0%増と前年同月をかなりの程度上回った。また、牛丼店を含むファストフードの和風は、客数がわずかな増加にとどまったものの、期間限定の定食メニューなどが好調で、同8.6%増と前年同月をかなりの程度上回った。ファミリーレストランの焼き肉は、お盆時期や土日が多い曜日周りで客足が戻り、同6.5%増と前年同月をかなりの程度上回った。

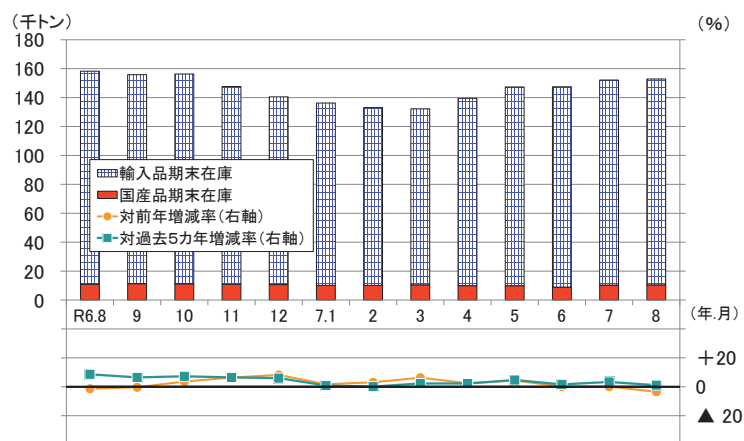
(注3) 1世帯当たりの数値を当該月の世帯人数で除して算出。

推定期末在庫・推定出回り量

8月の推定期末在庫は、15万2863トン（前年同月比3.4%減）と前年同月をやや下回った（図4）。このうち、国産品は1万476トン（同4.5%減）、在庫の大半を占める輸入品は14万2387トン（同3.3%減）と、ともに前年同月をやや下回った。

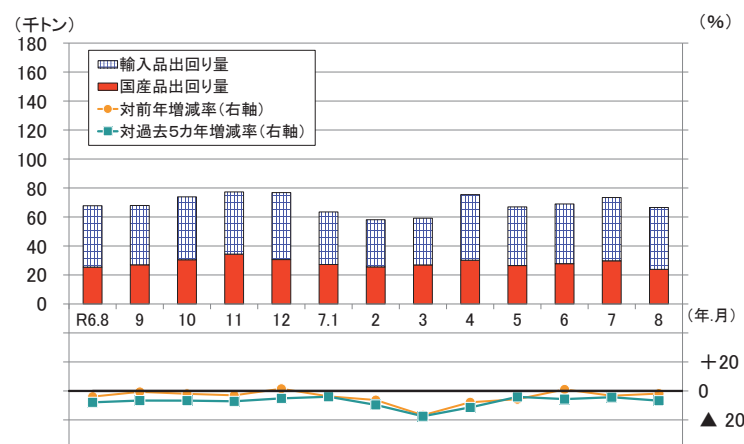
推定出回り量は、6万6537トン（同1.8%減）と前年同月をわずかに下回った（図5）。このうち、国産品は2万3884トン（同6.1%減）と前年同月をかなりの程度下回った一方、輸入品は4万2653トン（同0.7%増）と前年同月をわずかに上回った。

図4 牛肉期末在庫の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

図5 牛肉出回り量の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

(畜産振興部 丸吉 裕子)

豚 肉

7 年 8 月の豚肉生産量、前年同月比2.9%減

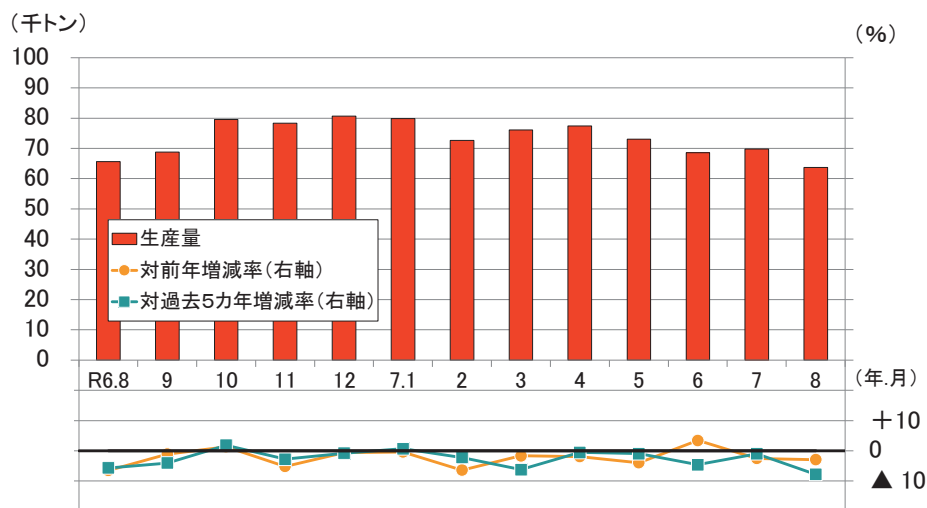
生産量

令和7年8月の豚肉生産量は、6万3753トン（前年同月比2.9%減）と前年同月を

わずかに下回った（図1）。

なお、過去5カ年の8月の平均生産量との比較でも、7.8%減とかなりの程度下回る結果となった。

図1 豚肉生産量の推移



資料：農林水産省「食肉流通統計」
注：部分肉ベース。

輸入量

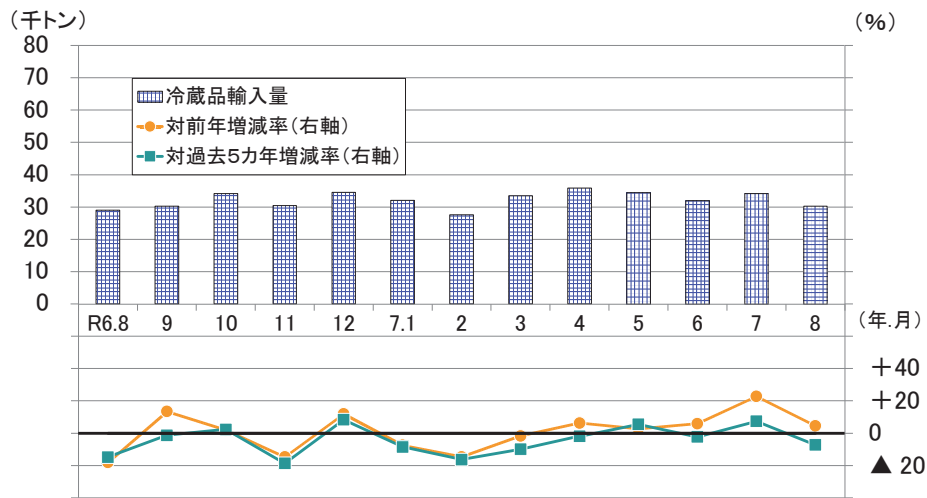
8月の輸入量について、冷蔵品は、米国産の価格が上昇する中、カナダ産が増加したことなどから、3万339トン（前年同月比4.5%増）と前年同月をやや上回った（図2）。冷凍品は、国内の輸入品在庫が多いことや、前年の輸入量が多かったことなどから、4万3674トン（同20.6%減）と前年同月を大幅

に下回った（図3）。この結果、輸入量の合計^{（注1）}では、7万4022トン（同12.0%減）と前年同月をかなり大きく下回った。

なお、過去5カ年の8月の平均輸入量との比較では、冷蔵品は7.3%減とかなりの程度、冷凍品は4.0%減とやや、いずれも下回る結果となった。

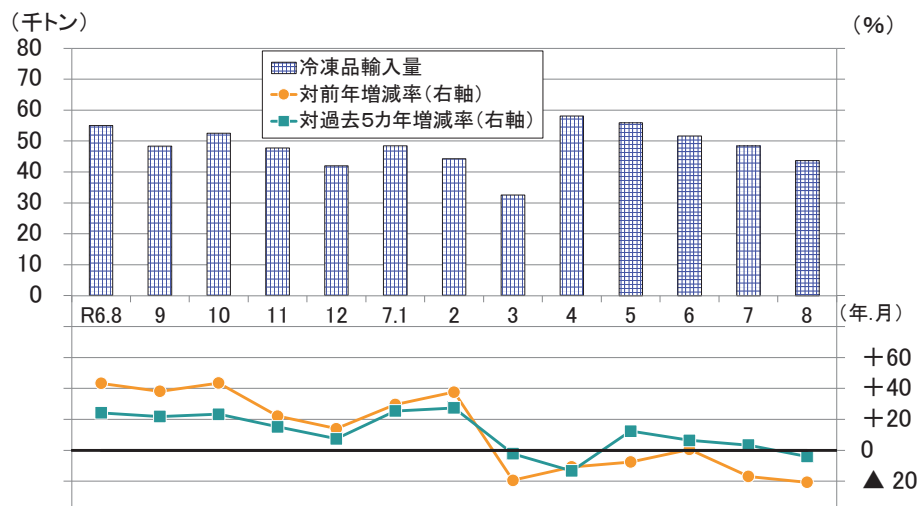
（注1）輸入量の合計は、くず肉を含む。

図2 冷蔵豚肉輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：部分肉ベース。

図3 冷凍豚肉輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：部分肉ベース。

家計消費量

8月の豚肉の家計消費量(全国1人当たり)^(注2)は、628グラム(前年同月比5.9%増)と前年同月をやや上回った(総務省「家計調査」)。

なお、過去5カ年の8月の平均消費量との比較でも、1.9%増とわずかに上回る結果となった。

(注2) 1世帯当たりの数値を当該月の世帯人数で除して算出。

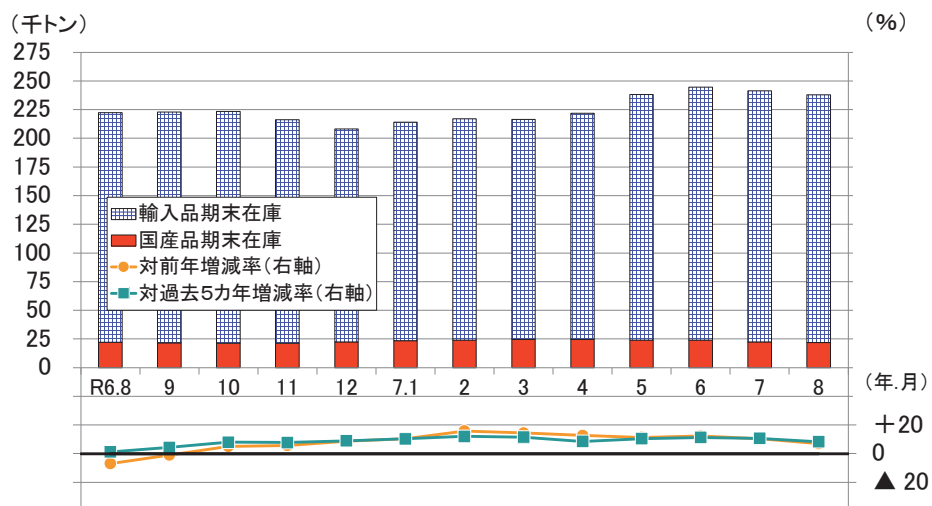
推定期末在庫・推定出回り量

8月の推定期末在庫は、23万8033トン(前年同月比7.0%増)と前年同月をかなりの程度上回った(図4)。このうち、輸入品は、21万6178トン(同7.9%増)と前年同月をかなりの程度上回った。

推定出回り量は、14万1100トン(同3.3%減)と前年同月をやや下回った(図5)。このうち、国産品は6万4151トン(同

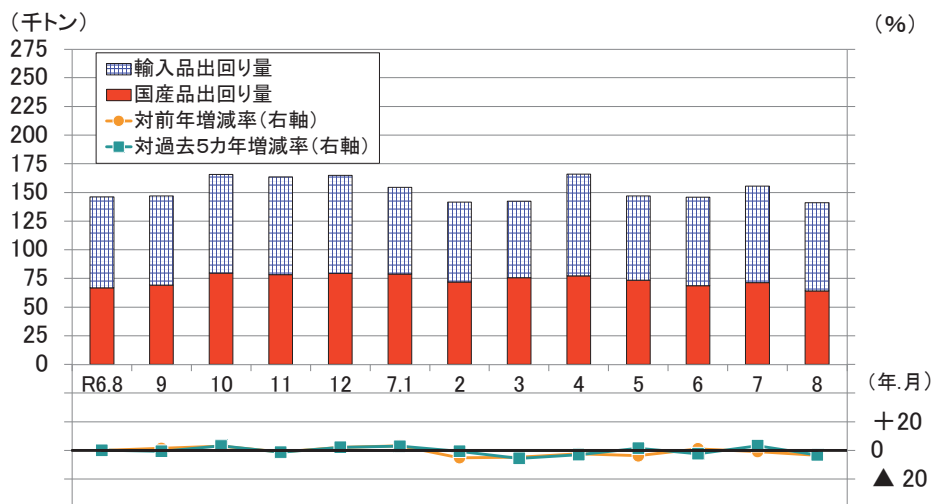
3.8%減)、輸入品は7万6949トン(同
3.0%減)と、ともに前年同月をやや下回っ
た。

図4 豚肉期末在庫の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

図5 豚肉出回り量の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

(畜産振興部 小森 香穂)

鶏 肉

7 年 8 月の鶏肉生産量、前年同月比6.2%増

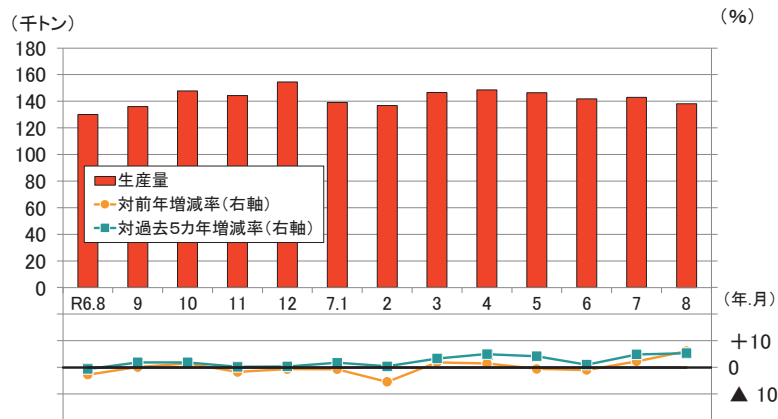
生産量

令和7年8月の鶏肉生産量は、13万8069トン（前年同月比6.2%増）と前年同月を

かなりの程度上回った（図1）。

なお、過去5カ年の8月の平均生産量との比較でも、5.4%増とやや上回る結果となった。

図1 鶏肉生産量の推移



資料：農畜産業振興機構調べ
注1：骨付き肉ベース。
注2：成鶏肉を含む。

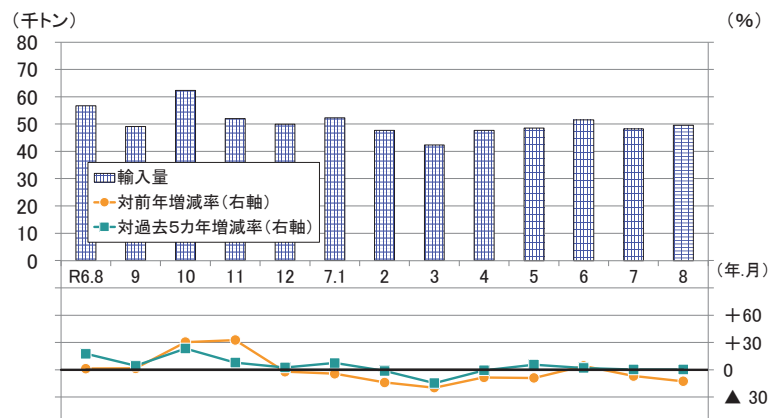
輸入量

8月の輸入量は、主産地であるブラジルで発生した高病原性鳥インフルエンザによる国際的な商流変化の余波を受けるなどして、

ブラジル産やタイ産が減少したことなどから、4万9613トン（前年同月比12.5%減）と前年同月をかなり大きく下回った（図2）。

なお、過去5カ年の8月の平均輸入量との比較では、0.3%増と同水準となった。

図2 鶏肉輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：鶏肉以外の家きん肉を含まない。

家計消費量

8月の鶏肉の家計消費量（全国1人当たり）^{（注）}は、505グラム（前年同月比3.9%増）と前年同月をやや上回った（総務省「家計調査」）。

なお、過去5カ年の8月の平均消費量との比較でも、4.2%増とやや上回る結果となった。

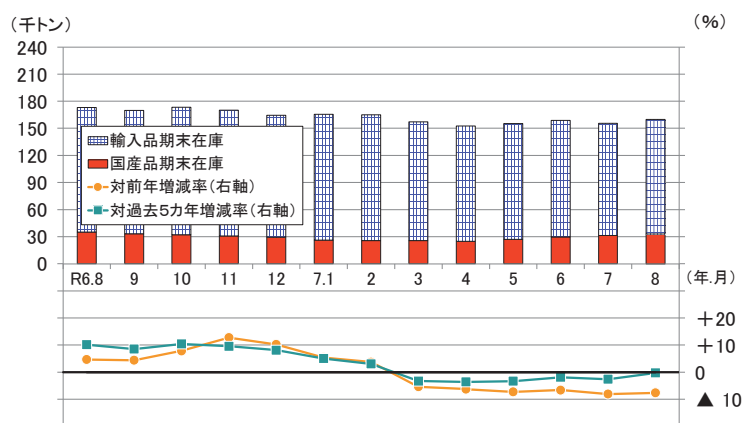
（注）1世帯当たりの数値を当該月の世帯人数で除して算出。

推定期末在庫・推定出回り量

8月の推定期末在庫は、15万9860トン（前年同月比7.6%減）と前年同月をかなりの程度下回った（図3）。このうち、輸入品は12万6707トン（同8.1%減）と前年同月をかなりの程度下回った。

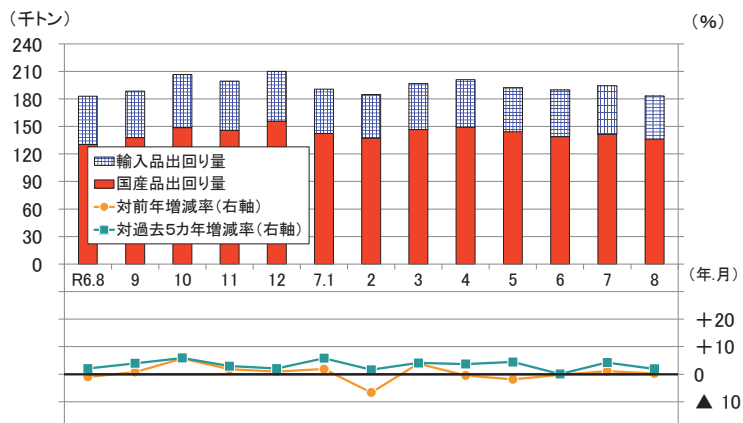
推定出回り量は、18万3193トン（同0.2%増）と前年同月並みとなった（図4）。このうち、国産品は13万6194トン（同4.4%増）と前年同月をやや上回った一方、輸入品は4万6999トン（同10.2%減）と前年同月をかなりの程度下回った。

図3 鶏肉期末在庫の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

図4 鶏肉出回り量の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

（畜産振興部 越川 紗弥）

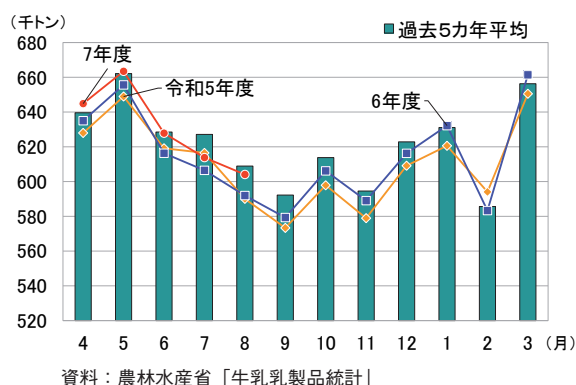
牛乳・乳製品

7年8月の全国の生乳生産量、前年同月を6カ月連続で上回る

都府県の生乳生産量、14カ月ぶり前年同月比1.0%増

令和7年8月の生乳生産量は、60万4090トン（前年同月比2.0%増）と6カ月連続で前年同月を上回った（図1）。地域別では、北海道が36万1925トン（同2.8%増）となり、13カ月連続で前年同月を上回った。また、都府県でも24万2165トン（同1.0%増）と、14カ月ぶりに前年同月を上回った。

図1 生乳生産量の推移



8月の生乳処理量を用途別に見ると、牛乳等向けは31万607トン（同1.5%減）と、前年同月を下回った。このうち、業務用向けについては2万2881トン（同5.9%減）と、3カ月連続で前年同月を下回った。

乳製品向けは28万9875トン（同6.3%増）と、6カ月連続で前年同月を上回った。これを品目別に見ると、クリーム向けは5万9234トン（同1.3%増）と3カ月ぶりに上回った。一方、チーズ向けは3万5771トン

（同2.8%減）と、3カ月連続で下回った。一方、脱脂粉乳・バター等向けは、14万6224トン（同11.5%増）となり、13カ月連続で前年同月を上回った（農畜産業振興機構調べ「交付対象事業者別の販売生乳数量等」）。

全国の牛乳生産量、前年同月比1.1%減

8月の牛乳等生産量を見ると、飲用牛乳等のうち牛乳は、24万5447キロリットル（前年同月比1.1%減）と前年同月を下回った。成分調整牛乳は前年割れが継続しており、1万7542キロリットル（同8.6%減）となった。また、加工乳については、1万1378キロリットル（同1.9%減）と、3カ月ぶりに前年同月を下回った。

はっ酵乳は8万6012キロリットル（同2.7%減）と、3カ月ぶりに下回った。

8月のバター在庫量、前年同月比18.5%増

8月のバターの生産量は5777トン（前年同月比13.2%増）と、前年同月をかなり大きく上回り、6カ月連続の増加となった（図2）。一方、出回り量は6392トン（同9.7%減）と3カ月連続で下回った（農畜産業振興機構調べ）。在庫量については、12カ月連続で前年同月を上回り、8月末は3万2585トン（同18.5%増）となった（図3）。

図2 バターの生産量の推移

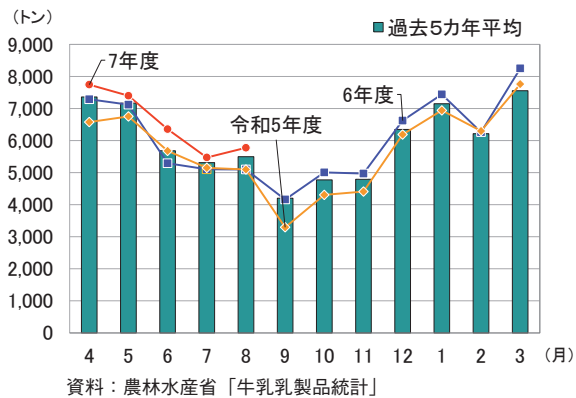


図4 脱脂粉乳の生産量の推移

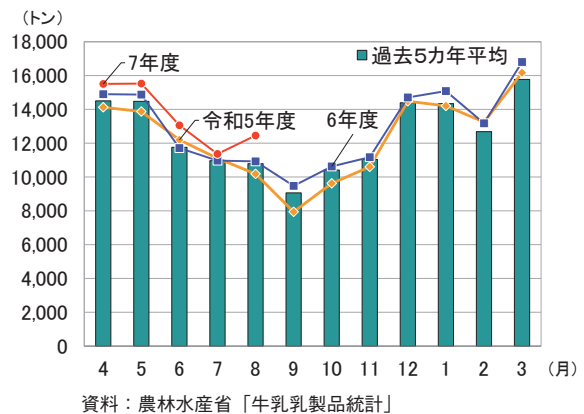


図3 バターの在庫量の推移

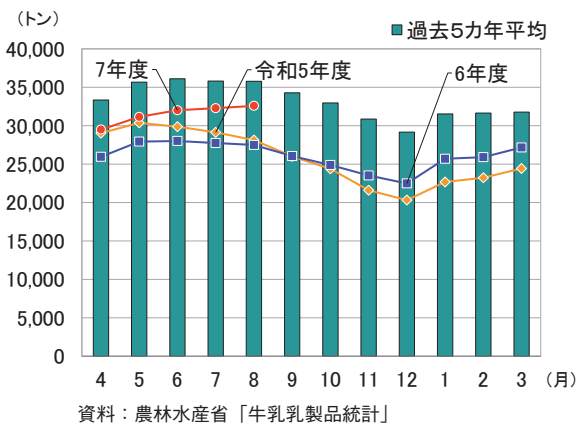
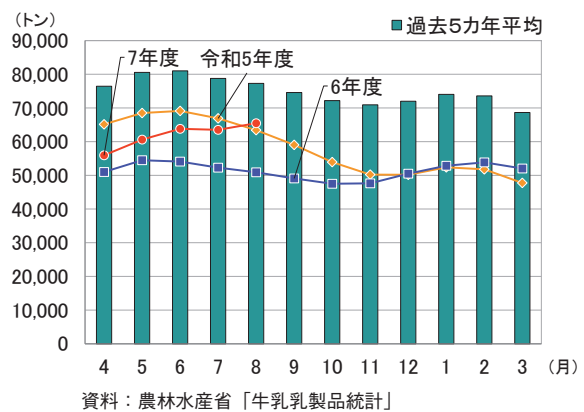


図5 脱脂粉乳の在庫量の推移



8月の脱脂粉乳在庫量、前年同月比28.6%増

8月の脱脂粉乳の生産量は、1万2453トン（前年同月比14.0%増）と前年同月をかなり大きく上回った（図4）。一方、出回りは1万584トン（同14.1%減）とかなり大きく下回り、7カ月連続で減少した（農畜産業振興機構調べ）。8月末の在庫量は、6万5471トン（同28.6%増）と大幅に上回り、9カ月連続で上回った。（図5）。

輸入枠数量、6月の検証結果を据え置き

農林水産省は令和7年9月12日、令和7年度の指定乳製品等の国家貿易による輸入枠数量の検証結果を公表した。これによると、現時点では、本年12月の最需要期までに小売りで欠品に至るまたはバター全体が過剰となる恐れについて、積極的に評価する状況にはないことから、本年1月に設定した輸入枠数量（生乳換算で13万7000トン^{（注）}）にとどめ、品目別内訳を据え置くこととした。当機構は、今回の検証結果を踏まえ、引き続きバター等の入札を実施する予定である。

（注）品目別の内訳は『畜産の情報』2025年3月号「6年12月の全国の生乳生産量、5カ月連続で前年同月を上回る」（https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003619.html）をご参照ください。

（酪農乳業部 天野 明日香）

鶏 卵

7 年 9 月の鶏卵卸売価格、前年同月比25.0%高

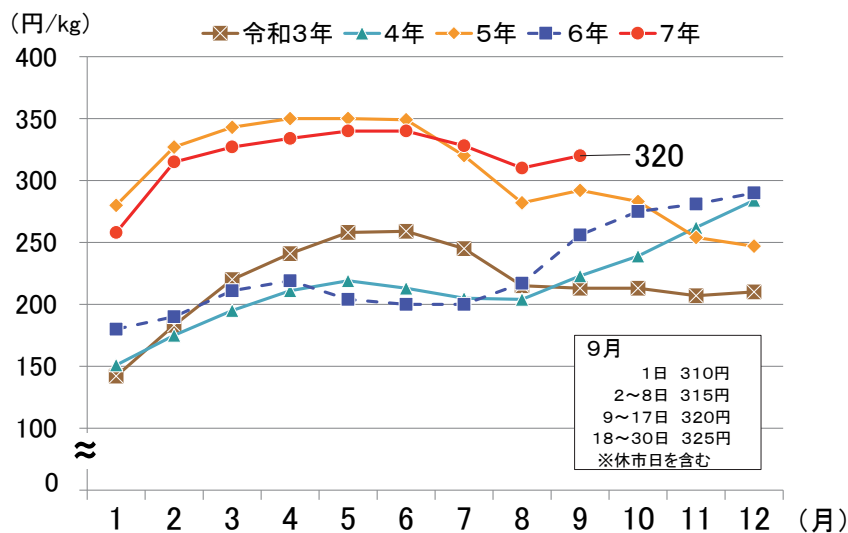
卸売価格

令和 7 年 9 月の鶏卵卸売価格（東京、M サイズ基準値）は、1 キログラム当たり 320 円（前年同月差 64 円高、前年同月比 25.0% 高）と、前年同月の同価格を大幅に上回った（図）。同価格の日ごとの推移を見ると、月初の同 310 円から 2 日には同 315 円、9 日には同 320 円、18 日には同 325 円と計 3 回の上昇があり、月間の上昇幅は同 15 円となった。

なお、過去 5 カ年の 9 月の平均卸売価格は 227 円であり、それと比較しても、41.0% 高と大幅に上回る結果となった。

供給面を見ると、高病原性鳥インフルエンザの影響からの回復が見られるものの、依然として猛暑の影響により産卵率や卵重の低下が一定程度見られた。需要面を見ると、外食筋では外食チェーンで毎年恒例の月見にちなんだ季節プロモーションが展開されるなど、荷動きは堅調に推移した。

図 鶏卵卸売価格（東京、M サイズ基準値）の推移



資料：JA全農たまご株式会社「相場情報」
注：消費税を含まない。

家計消費量

8 月の鶏卵の家計消費量（全国 1 人当たり）^{（注）} は、871 グラム（前年同月比 0.8% 増）と前年同月をわずかに上回った（総務省「家計調査」）。

なお、過去 5 カ年の 8 月の平均消費量との比較では、わずかに下回る結果となった。

（注）1 世帯当たりの数値を当該月の世帯人数で除して算出。

（畜産振興部 越川 紗弥）